

同牧場は黒毛和牛の肥育と繁殖を手掛け、町内で生産した牧草や小麦などを飼料として与えるブランド牛「ほんべつ和牛」を生産している。「Beans Beef」はさらに地元の資源を活用し、本別ならではの肉牛の生産を目指した。7月からは町内の道の駅ステラ★ほんべつで扱う。小笠原代表は「本別の豆を食べて育ったお肉を味わってほしい」と話す。

本別町で毎年夏に開催する「ほんべつ肉まつり」に出品する予定だったが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のためイベントが中止に。小笠原代表は、8月からは道内のまつり関連のオンラインショップ「どこフェス」での販売も予定している。



黒毛和牛の新ブランドを立ち上げた小笠原代表

田口畜産の安全管理 認証 J G A P 取得 乳用牛で十勝初 幕別

2020年7月15日

【幕別】酪農業の田口畜産（町日新、田口廣之社長）が日本GAP協会の「J G A P 家畜・畜産物」認証を取得した。家畜の飼育環境や従業員の安全など農場が適切に管理されている証明で、乳用牛部門での認定は十勝で初めて。

J G A Pは生産工程管理基準に基づく第三者機関による認証で、7日付で取得した。

同社は1954年創業。2代目の田口社長は90年に就任し、規模拡大を進めてきた。2014年に生乳の出荷先を指定団体から生乳卸のMMJ（群馬県）に変更。19年度には生乳出荷が1万トンを超えるギガファームとなった。現在の飼養頭数は約1,400頭。

認証には農場管理や家畜衛生、アニマルウェルフェア（家畜にとって快適な飼養環境）への配慮、作業者の安全確保と福祉、環境保全の観点から113項目が審査される。

消費者や出荷先の安全安心につながるとして、同社は昨年4月から認証取得に向け取り組みを進めてきた。農場管理の「見える化」として、倉庫や畜舎など各施設に看板を設置。毎月、従業員の誕生会を開催し、中国人技能実習生と地域との交流も生まれるなど働きやすい職場づくりに努めている。昨年12月にはいずれも取締役の田口弘美さんと伊藤琴絵さんがJ G A P指導員の資格を取得した。

弘美さんは「（従業員一人ひとりの）協力がないと認

証取得はできなかった。1度で認証されほっとしています」と話す。

田口代表は「牛乳を安心して飲んでもらえる。乳製品の加工など次の取り組みを考えていきたい」と今後を見据える。



認定証を手にする田口社長（中央）と取締役の田口弘美さん（左）、伊藤琴絵さん

鈴木牧場 J A S 有機認証 牧草を無農薬栽培 広尾 「安心・安全提供したい」

2020年9月5日

【広尾】鈴木牧場（町紋別16線）を営む酪農家鈴木敏文さん（38）は牧草地、デントコーン畑のJ A Sオーガニック（有機）認証を取得した。牧草などを無農薬、無化学肥料で栽培していることが評価され、J A ひろお（鯖江雅浩組合長）によると「町内の酪農家では初で、十勝でも非常に珍しい」。鈴木さんは「お墨付きを得られたことはうれしい。これからも循環型酪農で安心・安全な食べ物づくりに取り組みたい」と話している。

鈴木さんは米国での酪農実習を経て、2005年に実家に就農。鈴木牧場の4代目として、獣医師の妻なつきさん（43）や母節子さん（61）とともに、現在は乳牛102頭、肉牛3頭、鶏15羽などを育てている。

有機酪農を始めたきっかけは、10年に牧場内で発生したサルモネラ症。「陽性の牛を淘汰（とうた）するのがつらかった。牛の健康を改めて考えるきっかけになった」と鈴木さん。なつきさんから「予防が最大の治療」と助